

平成 30 年 6 月 1 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H02954

研究課題名(和文) 東日本大震災で被災した民俗文化財の保存および活用に関する基礎研究

研究課題名(英文) Basic research for the Conservation and Utilization of Tangible Cultural Properties Damaged by the Great East Japan Earthquake

研究代表者

日高 真吾 (HIDAKA, SHINGO)

国立民族学博物館・人類基礎理論研究部・准教授

研究者番号：40270772

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、東日本大震災で被災した民俗文化財を対象とし、被災地でおこなえる塩分除去などの保存処理法の開発と、長期化する一時保管場所の環境改善対策の策定、さらには震災で失われた資料情報の復元と博物館におけるこれら被災民俗文化財の積極的な活用について実践的な研究活動をおこなった。その結果、これらの課題を解決するための方法論の策定及び実践研究を積み重ね、次の大規模災害に備えた被災文化財の復興活動のあり方を提示した。また、これらの成果については、論文の他、国際シンポジウムや招待講演を始め、多くの場で広く公開した。

研究成果の概要(英文)：In this research, we covered the folk cultural properties affected by the Great East Japan Earthquake, develop a conservation treatment method such as salt removal that can be done in the afflicted area, formulate environmental improvement measures for prolonged temporary storage place. In addition, we carried out practical research activities on restoration of information lost due to the disaster and active utilization of these disaster-affected folk cultural properties in museums.

As a result, we formulated a methodology and solved practical research to solve these problems, and presented a way of reconstruction of disaster-affected cultural properties in preparation for the next large-scale disaster. Furthermore, we published these results widely in many fields including papers, international symposiums and invited lectures.

研究分野：文化財科学

キーワード：被災文化財 民俗文化財 保存科学 文化財レスキュー 文化財防災

1. 研究開始当初の背景

東日本大震災発生後の2012年度以降、研究代表者は、津波で被災した民俗文化財への塩分影響が大きな問題であると考え、予備試験として、東日本大震災で被災した民俗文化財と高濃度の塩分環境で使用されてきた醤油醸造用具を同じ条件で脱塩処理をおこない、比較検証した。その結果、被災民俗文化財には、醤油醸造用具と同程度の塩分量を含むものが多くあることを確認するとともに、大量に文化財レスキューされたこれら民俗文化財の脱塩処理を現地で実施できる方法論の策定の必要性を明らかにした。

一方で、博物館施設の再建が進まないことから、一時的な仮置き場であるはずの一時保管場所の使用が長期化する課題も明らかになった。これらの一時保管場所は、外気の影響を受けやすく、温度湿度のコントロールができない。また、開口部が多く、害虫が侵入しやすい環境にあることから、生物被害の危険にさらされている。さらに、外光が入りやすいことから、赤外線や紫外線による劣化も生じやすい場所でもある。

そこで研究代表者は、これまで自身がフィールドワークしてきた廃校を利用した文化財収蔵庫の環境測定の結果を参照して、被災地における一時保管場所の環境改善のための項目を整理する必要性を明らかにした。

加えて、今後、被災した文化財を適切に保存、継承するためには、被災文化財を積極的に活用するためのプログラム開発の必要性についても、これまでの調査結果から明らかにした。

以上の、研究課題について、本研究の計画を立案するにいたった。

2. 研究の目的

本研究は、東日本大震災で被災した民俗文化財を対象とし、被災地でおこなえる塩分除去などの保存処理法の開発と、長期化する一時保管場所の環境改善対策の策定、さらには震災で失われた資料情報の復元と博物館におけるこれら被災民俗文化財の積極的な活用について実践的な研究活動をおこなうものである。

東日本大震災で被災した民俗文化財は、現在、津波に含まれていた塩分の課題、長期化する一時保管場所の環境改善の課題、博物館再建が進まず被災文化財の研究・活用の機会が失われているという課題に直面している。そこで、本研究では、これらの課題を解決するための方法論の策定及び実践研究を積み重ね、次の大規模災害に備えた被災文化財の復興活動のあり方を提示する。

3. 研究の方法

1) 被災地で実施できる被災民俗文化財の保存修復方法の開発

ここでは、2011年度に一次洗浄をおこなった民俗文化財の経過観察を進めるなかで、塩分に起因する劣化が本格的に始まっていることが観察されはじめた。そこで、予備試験として被災した民俗文化財の脱塩処理をおこなったところ、かなりの塩分量を含んだ民俗文化財が多数存在していることが明らかになった。また、これら大量の被災民俗文化財を対象に脱塩処理を実施するには、被災地の博物館の学芸員やボランティア、大学生の協力が必須であると考えた。そこで、本研究では、研究代表者が所属する国立民族博物館において、脱塩処理を中心とした具体的な保存修復方法の技術開発をおこない、連携研究者や研究協力者が所属する被災地の博物館や大学機関と連携して実際の作業を実施し、その効果を検証しながら、被災地で実施できる保存修復方法を確立する。ここでは、主に東北歴史博物館、東北学院大学で一時保管されている民俗文化財を対象として研究をおこなうこととした。

2) 長期使用となっている一時保管場所の環境改善対策の確立

ここでは、一時保管場所の使用が長期化することで、環境改善対策が必須となっている課題について、研究代表者がこれまでフィールドワークをおこなってきた新潟県村上市の旧荃太小学校民俗文化財収蔵庫のデータを参考にしつつ、実際に一時保管場所として利用されている気仙沼市旧月立中学校を研究対象として環境改善対策を実施する。具体的には、旧荃太小学校で採用されているドライエリアゾーンの創出やIPM活動の実践、外光対策などの方法論を旧月立中学校で導入し、その効果について、研究代表者及び研究分担者を中心に検証することとした。

3) 被災民俗文化財を対象とした民俗調査の実施

被災地においては、十分な被災文化財の調査研究がおこなわれていない現状があり、これは、資料情報のデータ等が津波に流されてしまった博物館施設では極めて重大な問題となっている。すなわち、救出した文化財の情報が再付与されないばかりに、それらの文化財的価値が再評価できない事態が生じていたのである。そこで、これらの問題を解決するために本研究では、被災地の民俗研究者を連携研究者及び研究協力者として招聘し、被災した民俗文化財の民俗学、民具学的な調査研究を実施することとした。また、災害を経験した地域において被災した文化財をどのように活用しているのかについて、津波災害、水害の経験をもつ地域博物館の現状について調査をおこなうこととした。その後、これらの成果をもとに、国立民族学博物館において企画展を開催し、研究成果の公開を実現することを目標とした。

4. 研究成果

本研究では、東日本大震災で被災した民俗

文化財を対象とし、被災地でおこなえる塩分除去などの保存処理法の開発と、長期化する一時保管場所の環境改善対策の策定、さらには震災で失われた資料情報の復元と博物館におけるこれら被災民俗文化財の積極的な活用について実践的な研究活動をおこなった。その結果、脱塩処理については東北学院大学との連携のもと、本研究チームの指導のもと、学生による脱塩処理が実施できるプログラムを策定することができた。また、一時保管場所の改善については、気仙沼市旧月立中学校をフィールドとして必要最小限の改修と、そこで働くスタッフに対して IPM 教育をおこない、環境改善に成功し、一時保管場所の改善・運用方法のプログラムを策定することができた。また、これらの成果については、論文の他、国際シンポジウムや招待講演を始め、多くの場で広く公開するとともに、被災文化財の活用事例として、国立民族学博物館において、2017 年 1 月 19 日～4 月 11 日にかけて企画展「津波を越えて生きる—大槌町の奮闘の記録」を開催した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7 件)

日高真吾「災害をテーマとした展示活動についての一考察 - 東日本大震災関連展示『津波を越えて生きる;大槌町の奮闘の記録』の展示経験から」『展示学 55 号』20-29 2018 年 日本展示学会(査読あり)

日高真吾「日本における地域文化研究への新たなアプローチ」『民博通信 160 号』4-9 2018 年 国立民族学博物館(査読なし)

日高真吾「地域文化遺産の継承」『文化遺産と生きる』P373-P394 2017 年 臨川書店(査読なし)

日高真吾「新世紀ミュージアム 雲仙岳災害記念館」『月刊みんぱく 478 号』pp.16-17 2017 年 国立民族学博物館(査読なし)

日高真吾「文化財等レスキュー事業の意義を考える - 被災文化財から文化財へ」『災害文化の継承と創造』pp.238-250 2016 年 臨川書店(査読なし)

日高真吾「東日本大震災で被災した民俗文化財の脱塩処理に関する一考察」『民具研究 152 号』99-114 2015 年 日本民具学会(査読あり)

日高真吾「大規模災害における文化財レスキュー事業に関する一考察 - 東日本大震災の活動から振り返る - 」『国立民族学博物館研究報告 40 巻第 1 号』1-52 2015 年 国立民族学博物館(査読あり)

[学会発表](計 22 件)

日高真吾「地域に根ざした民具の保存と活用」『福崎町立神崎郡歴史民俗資料館平成 29 年度連続講座』2018 年

日高真吾「災害で被災した文化財のレスキューについて - 文化財保存修復学会の活動を中心に」愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所「災害と文化財」講座第 2 回『被災文化財を考える』2017 年

Sonoda, Naoko Hidaka, Shingo Suemori, Kaoru「Challenges and reflections for sustainable climate control at the National Museum of Ethnology, Japan」『ICOM-CC 18th Triennial Conference 2017 Copenhagen』2017 年

日高真吾「被災した民俗文化財の応急処置」『平成 29 年度文化財等防災ネットワーク研修』2017 年

日高真吾「生活文化の記憶を取り戻す - 文化財レスキューの現場から - 」『負の歴史遺産、歴史認識と博物館』2017 年

日高真吾、園田直子、末森薫、西澤昌樹、吉田憲司、和高智美、河村友佳子、橋本沙知「国立民族学博物館の失火対応について—消火剤の除塵を中心に」『第 39 回文化財保存修復学会大会』2017 年

園田直子、日高真吾、末森薫、松田万緒、西澤昌樹、和高智美、河村友佳子、橋本沙知「国立民族学博物館における収蔵庫再編成—民族資料の収納・保管改善」『第 39 回文化財保存修復学会大会』2017 年

河村友佳子、橋本沙知、日高真吾、園田直子、末森薫、和高智美、國本信夫、本田光子「被災した民俗資料の応急処置—熊本地震の経験から」『第 39 回文化財保存修復学会大会』2017 年

日高真吾「東日本大震災関連展示「津波を越えて生きる;大槌町の奮闘の記録」を考える」『第 36 回日本展示学会』2017 年

日高真吾、吉田憲司、丸川雄三、寺村裕史、末森薫、和高智美「東日本大震災を契機に開発した『津波の記憶を刻む文化遺産「寺社・石碑」データベース』の可能性」『第 34 回日本文化財科学会』2017 年

和高智美、日高真吾、末森薫、川越和四、福田尚、幡野寛治「学校を利用した収蔵施設の維持管理に関する一考察 - 宮城県気仙沼市旧月立中学校収蔵施設の事例から」『第 34 回日本文化財科学会』2017 年

日高真吾「国立民族学博物館の露出展示を支える展示手法の現状と課題」『みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム事業第 2 回研修会』2017 年

日高真吾「国立民族学博物館におけるアイヌの文化展示場の失火対応について」『国立歴史民族博物館職員研修』2017 年

日高真吾「日本における文化財レスキューについて」『国際コンソーシアムシンポジウム「エクアドル地震による文化財被害状況報告」』2017 年

日高真吾「被災文化財の支援から考える地域文化の保存と活用」『「記憶の劇場」大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座』2016 年

日高真吾「東日本大震災と文化財レスキュー」『北方民族博物館特別講座』2016年

日高真吾「石川県穴水町の文化遺産を保存する - 保存修復の視点から」『国際フォーラム「地域文化の発見、保存、活用」』2016年

日高真吾「民具の保存処理と災害時における応急措置について」『第66回日本木材学会』2016年

日高真吾「一時保管場所の現状 - 気仙沼市旧月立中学校の事例」『文化財防災ネットワーク推進事業・文化財保存修復学会例会大規模災害時における被災資料の一時保管施設について考える』2016年

日高真吾、園田直子、末森薫、和高智美、河村友佳子、橋本沙知、多田隈卓司、左治木悠子、川越和四、福田尚、小谷竜介、幡野寛治「東日本大震災の被災文化財の一時保管場所の環境改善 - 気仙沼市旧月立中学校の事例から」『文化財保存修復学会第37回大会』2015年

²¹末森薫、園田直子、日高真吾、高鳥浩介、吉田直人、川越和四、和高智美、河村友佳子、橋本沙知「近紫外・可視光波長域を応用した博物館資料の光学調査法 - カビに由来する蛍光反応可視化を事例として」『文化財保存修復学会第37回大会』2015年

²²日高真吾「東日本大震災における文化財レスキュー」『国際学術大会「災難及び産業安全に関する東アジア安全共同体摸索」』2015年

〔図書〕(計 2 件)

日高真吾編『地域文化の再発見、保存と活用』Knit-K 159頁 2018年3月

日高真吾編『市民と語らう文化財』Knit-K 95頁 2018年3月

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/15H02954>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

日高 真吾 (HIDAKA Shingo)

国立民族学博物館・人類基礎理論研究部・准教授

研究者番号：40270772

(2) 研究分担者

園田 直子 (SONODA Naoko)

国立民族学博物館・人類基礎理論研究部・教授

研究者番号：50236155

末森 薫 (SUEMORI Kaoru)

関西大学・国際文化財・文化研究センター・ポスト・ドクトラル・フェロー

研究者番号：90572511